

経営者の皆様に、次への視野(スコープ)を。
毎月、かんぽ生命がお届けします。

かんぽスコープ

Vol.156

経営
時流

クラウドファンディング 町工場が 新規事業を成功させた軌跡。

CFをテコに飛躍する。



「誰にでも成功の可能性があります」と語る高山氏。

事業を支える「人・物・金・情報」。新規事業に挑戦するにしても、これらの不足が壁となって踏み出せないこともあるでしょう。しかし実際は「金さえ確保できれば、物は当然のこと、人と情報も何とかなるかもしれません。そこで今回は、町工場を母体に、新たな事業に乗り出すためにベンチャー企業、コトブキメディカルを設立し、資本金をクラウドファンディング^{※1}で調達した高山成一郎社長を取材。新しい資金調達方法を活用して、製造業の「夢」を実現している姿を紹介します。

リーマンショックで、脱下請けを切実に願う。

2019年、ファンディング^{※2}を通じてコトブキメディカルが調達した資金は約9000万円。金額もさることながら、投資家591人の数も、当時、日本最高記録だった。

「もしかしたら、町工場のオヤジが一発逆転をかけて、どん底から這い上がる姿に同僚が集まったのかもしれない(笑)」

その言葉は、冗談半分にしても、謙遜ではない。実際、高山氏が経営する株式会社寿技研は、どこにでもあるような町工場だ。少し違うのは、工作機械を自作し、特殊な加工にも柔軟に思えられるところ。それで「困ったら寿」の噂が広がり、多種多様な注文が舞い込んだおかげで「そこそこやってこられた」。

「中にはミニ四駆^{※3}のタイヤのように、ブームに乗って爆発的な売り上げをあげる製品もあります。ただし、ブームが去ると一気に注文が蒸発するので、ジェットコースターのような経営を繰り返してきまして」

ヒットのあとは、余剰人員や材料在庫、投資の負債が重荷になる。さらにリーマンショックのときは、売り上げ減と返済が重なり存亡の危機に立たされた。そこで、得意先を回り共同開発の提案を試みたが、「キミたちは黙って作ってあげればいんだ」と突き放された。

「下請けのままではダメだ」と感じた高山氏は、自社製品の開発をさま

ざまに試みる。しかし、どれも失敗。

コンニャクを素材にした模擬臓器を開発。

そんな試行錯誤の日々が3年ほど続き、「廃業」の文字が頭をかすめるようになった頃、医療機器メーカーに勤める昔の友人とぼつたり会ったのが転機になった。

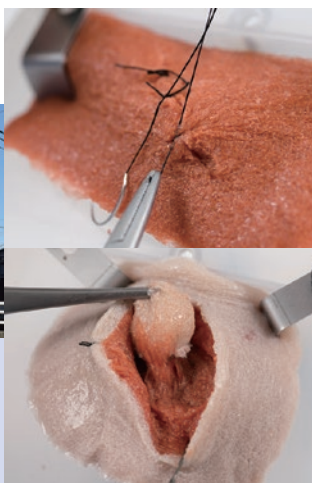
「彼から、腹腔鏡手術^{※4}のトレーニングボックスの需要があることを聞いたのです。これなら、ウチの技術で容易に作れると思

い、すぐに製品化しました」
学会で展示すると反響は大きく、ネットショップで販売が伸びる。14年の発売開始から3年間の売り上げは6000万円を超えた。廃業の危機からひと息ついた形になったが、はたと気づいたのは、「腹腔鏡手術を行う先生に製品が行き渡ったら、あとが続かない」こと。そこで次に、医師のトレーニングに関係する消耗品の開発に取り組むことにした。

学会で親しくなった医師に尋ねると、「消耗品とはいえないけど、豚の胃とか心臓とか、講習会でよく切る



KOTOBUKI Medical株式会社
〒340-0816
埼玉県八潮市中央4-7-3
☎048-951-5211
<https://kotobukimedical.com/>



模擬臓器の開発コンセプトは、縫えるコンニャク。力を加えると、筋が伸びてちぎれていく。



胃の粘膜モデルを装着し、内視鏡トレーニングができる機器(G-Master)も開発。

※1 個々には少額の出資金を多数の人から集める方法。現在はインターネット経由で行われるのが一般的。※2 日本初の株式投資型クラウドファンディングを提供するFUNDINNO。累積成約額は約93億円、投資家数は約11万6,000人(2022年12月現在)。※3 動力付きの小型自動車模型。株式会社タミヤの登録商標。※4 開腹せず、内視鏡を用いて行う手術。



「結局、ニーズがなかったのです。先生方は、臓器で練習なんてしませんし、若手の教育はOJTです。ならばニーズを作るところから始めないといけないけれど、私にそんな経験もノウハウもありません」

マーケティングができる人材が必要だと思いついたとき、以前、地元の工場ネットワーク化で協力してもらった、投資コンサルタントの杉浦元氏と偶然再会した。

杉浦氏から

調達した資金で、優れた人材を獲得。

「これでもまた2年ほど試行錯誤で、いろんなものを混ぜてみましたが、うまくいきません。企業秘密でこれ以上は話せませんが、最終的には追加物ではなく、製造工程を工夫することで、切れる、剥がせる、縫える、模擬臓器が完成しました」

VTT^{※5}と名付けて発売したのが17年。外科医の間の評判は上々。ところが、まったく売れない。「なぜだ」と原因を追究すると、思いがけない、大きな課題に行き当たった。

「優秀な人材が欲しいなら、町工場の寿技研では無理。ベンチャー企業として切り出すべきだ」との助言を受け、コトブキメディカルを設立。また、先の旧友が、医療機器メーカーを退職したばかりの梅本浩利氏を紹介してくれた。その後、杉浦氏と梅本氏は、取締役として新会社に参画することになった。

「町工場の経営であたふたしていた時代に、こんな未来があるとは思ってもみませんでした。振り返ると、大きかったのは、偶然も含めたさまざまな人との出会い。また、自分で学会に出展し、ユーザーである先生方の声を直接聞ける関係を築いたことも重要だったと思います。そしてやはり、クラウドファンディング。資金も人材も、まったく別次元のステージに飛躍できましたからね」

※5 Versatile Training Tissueの略。

脳内物質活性化術

「アセチルコリン」で、創造力を引き出す

監修＝**樺沢紫苑**
精神科医・精神医学・心理学・脳科学の知識を分かりやすく解説。著書は40冊を超え、脳内物質に関しては「脳を最適化すれば能力は2倍になる」などがある。

創造力は、昼に夢を見る力

心身の疲労回復に、夜は副交感神経をしっかりと働かせることが重要です。副交感神経の伝達物質となるのが「アセチルコリン」。睡眠中に分泌が高まり、脳や体の休息を促しますが、さらにアセチルコリンは、記憶力や創造力を高めると報告されています。なぜでしょうか。

アセチルコリンが脳内に放出されると、シナプス(神経細胞の隙間、148号参照)がつながりやすくなります。睡眠中の80%を占めるレム睡眠(夢を見ている浅い睡眠)では、無数の神経細胞が絶えずパターンを変えながら活発に電気信号をやりとりしています。そうして記憶と記憶が結びつき、整理されて記憶が定着するのです。

この整理の過程で夢を見るわけですが、論理的な関連性の薄い記憶が結びつく

奇想天外な夢になります。そのとっぴさの中に、もし意味を見いだすことができれば「ひらめき」です。創造とは、昼に見る夢と言い換えてもいいかもしれません。

創造力を引き出す方法

まずは昼寝。アセチルコリンはレム睡眠中に盛んに分泌されるので、浅い眠りの昼寝は最適です。実は、午後、ちょっと眠気が差すのは、アセチルコリンの活性が高まっている証拠。論理による縛りが緩くなって、思いがけない発想が生まれやすくなります。精神が弛緩する場所、「創造性の4B」(右図参照)がチャンスです。

そして、好奇心を刺激するのも方法です。初めての場所に行ったり、興味をもったことを調べたり、新しい刺激が多いとアセチルコリンの分泌が活発になります。例えば1時間の昼食時でも、新しい店や、新

しいメニューに挑戦してください。

そのとき、ノートを忘れずに持って行き、良いアイデアがひらめいたら書き留めましょう。ひらめきは神経細胞の発火(電気的活動)にすぎません。花火のようなもので、輝いた瞬間にすかさずシャッターを押さないと残らないのです。

創造性の4B

Bar バー ほろ酔い気分するとき	Bathroom お風呂・トイレ リラックスしているとき
Busses バス 乗り物に乗っているとき	Beds ベッド 就眠前や就眠中

*フレドリック・ヘレーン著『スウェーデン式アイデアブック』より

(注) 記事中に記載の法令や制度等は取材当時のもので、将来変更されることがあります。詳細につきましては、各専門家にご相談いただきますようお願いいたします。